

2010W杯南アフリカ大会の得点王になった選手に関する研究

—特に日本代表のFWと比較して—

川村 公之 (競技スポーツ学科 スポーツ情報戦略コース)
指導教員 望月 聡

キーワード：得点王 日本代表 FW

1. 緒言

ワールドカップは4年に1度のビッグイベントである。アフリカ大陸での大会は今大会が初開催である。2010FIFA南アフリカワールドカップは、スペイン代表の優勝で幕を閉じた。今大会の得点王を見てみると、ベスト4進出チームからFWダビド・ビジャ(スペイン)、MF ウェズレイ・スナイデル (オランダ)、MF トーマス・ミュラー(ドイツ)、FW ディエゴ・フォルラン(ウルグアイ) の5得点である。日本代表の予選ラウンドから決勝トーナメントの全試合のゴール数は4点であり、最多ゴール数は、FW 本田の2点であった。実際にワールドカップを観ていて、メディアからも言われているように日本代表には決定力がないのではないかと思う。そこで本研究では、得点王の選手(ディエゴ・フォルラン)と日本代表のFWにはどのような差があるのか?また、今後の日本代表FWにとっての課題を見つけ、私自身が指導をする際に役立てればと思う。

2. 研究方法

2010 ワールドカップの得点王(ディエゴ・フォルラン)の予選ラウンド1試合と決勝トーナメント3試合と日本代表の試合を分析対象とし、VTR分析を行う。

①シュート数

②得点パターン(センタリング、スルーパス、個人技、セットプレー)

3. 結果

図1からフォルランのシュート総数21本中5ゴール。本田は9本中2ゴール、松井は4本中0ゴール、大久保は6本中0ゴール、岡崎4本

中1ゴールであり、1試合毎で見てもフォルランの方が上回っていた。表2、3からフォルラン・日本代表FW共にCKの得点はなく、フォルランはスルーパスからの得点もなかった。日本代表はスルーパスからの得点はあったが、フォルランと違い、個人技での得点はなかった。

4. 考察

フォルランと日本代表FWを比較するとシュートへのチャレンジ意識が低い=「ゴールへの意識が低い」ということが日本代表FWに考えられ、日本代表FWには個人でゴールを奪う力が足りないと考えられる。

5. 結論

フォルランと違い日本代表FWには得点パターンが少なく、シュートへの意識も少ない。分析をしても、フォルランは身体能力が高い訳ではなかったが、個人技でシュートまで持っていく力が高いことがわかった。日本代表は、個人技や得点パターン数、シュートへの高い意識必要だと思う。

5. 参考文献

日本サッカーが世界で勝てない本当の理由

サポティスタ 岡田康宏 マイコミ新書 2010年

サッカー王国ブラジルに見る「決定力」育成方 下田哲朗著 A・P・マリーニョ監修 東邦出版 2008年

2010FIFA南アフリカワールドカップDVD

rekishi.shukyu.net/whai.html

www.d4.dion.ne.jp/~warapon/archives/s